



校園名：新潟大学教育学部附属新潟小学校

所在地：〒951-8535 新潟県新潟市中央区西大畠町 5214 番地

電話番号：025-223-8321

記載日：平成28年5月19日 記載者：山田 哲哉 記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

創立142年目の伝統ある学校である。日本海、松林など学校周辺に豊かな自然環境があるだけでなく、古町という新潟市の伝統的商店街も近くにある。附属新潟中学校が同一校舎内、附属特別支援学校が同一敷地内にあり、恵まれた教育環境である。

各学年2学級に加え、低・中・高学年それぞれに複式学級を設置しているため、15学級である。児童数は463名。新潟市内全域が学区で、車による送迎は認めていないため、ほとんどの児童が、路線バス、電車などの公共交通機関で通学している。

教育目標は平成11年度以来「**学びを生かす子ども**」。臆せず自分の考えを表出できる児童、知的好奇心にあふれた児童が多い。

保護者は教育熱心で、学校の教育活動に大変協力的である。通常のPTA活動に加え、図書の貸し出し、図書室の掲示物作成、図書に関するイベントを行う**図書ボランティア**登録者が30数名、花壇の整備や校舎内外の環境を整備する**グリーンボランティア**登録者が20数名おり、積極的に活動している。昨年度の研究会では、**103名もの保護者が研究会の運営補助に携わった**。

貴校の卒業生の活躍状況について：

現新潟市長をはじめ、ディレクター・映画監督、アナウンサーなど、著名な卒業生はいるが、小学校では追跡調査を行ったり、同窓生名簿を作成したりはしていない。

隣接の附属新潟中学校が同窓生名簿を作成するとともに、2年に1回、同窓会総会を開催している。

※ 小学校の卒業生のほとんどが附属新潟中学校に進学する。中学校入試で公立小学校から附属新潟中学校に入学する生徒はおよそ1学級分の人数である。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

追跡調査は行っていないが、小学校が事務局となり、附属新潟中学校、附属特別支援学校も合わせて附属新潟三校で同人（勤務経験者）名簿を作成し、勤務先も含め、毎年更新している。

勤務経験者のほとんどが、その後、管理職となり、さらにそのほとんどが、教育委員会、大学などで活躍している。

現在も、新潟県教育委員会、教育事務所、県立教育センター、政令新潟市教育委員会、新潟市立教育センター、各市町村教育委員会の指導主事、管理主事として力を発揮している。

今年度は、県義務教育課参事、同指導係長、新潟市教育委員会教職員課長、同学校支援課長、同総合教育センター所長は、当校の同人である。

退職後に市町村教育委員会の教育長、大学の特任教授になる同人も多い。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなど：

I 全国区の研究

1 初等教育研究会の実施

毎年2月に初等教育研究会を開催している。養護教諭、栄養教諭も含め、全教科等、全教諭2日間連続授業公開が当校の伝統である。毎年、北は北海道、南は沖縄まで全国各地から2日間で延べ2,000人を超える参会者を得ている。申込実数は25年度は1,311人、26年度は1,236人、27年度は1,350人と、全国でも有数の参加者数を誇っている。

26年度から、授業公開に続く授業協議会を「シェアリングタイム」と改め、ファシリテーションや授業の追体験などを取り入れ、参会者一人一人の意見を反映しやすくしている。

また、1日目はフォーラムを開催し、当校の取組を分かりやすく提案している。27年度は、次の3つのフォーラムを行った。

- (1) 附属新潟式学習スキル (ゲスト：新潟大学教育学部准教授 一柳 智紀 氏)
- (2) 附属新潟式学級力 (ゲスト：上越教育大学教職大学院教授 赤坂 真二 氏)
- (3) 附属新潟式情報リテラシー (ゲスト：東北大学大学院教授 堀田 龍也 氏)

2日目は著名な研究者を講師に迎え、講演会、シンポジウムなどを行っている。27年度は、次の3名によるシンポジウムを行った。

- 国立教育政策研究所総括研究官 白水 始 氏
東北大学大学院教授 堀田 龍也 氏
慶應義塾大学教職課程センター教授 鹿毛 雅治 氏

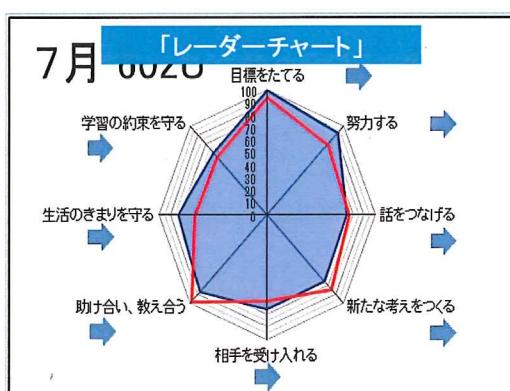
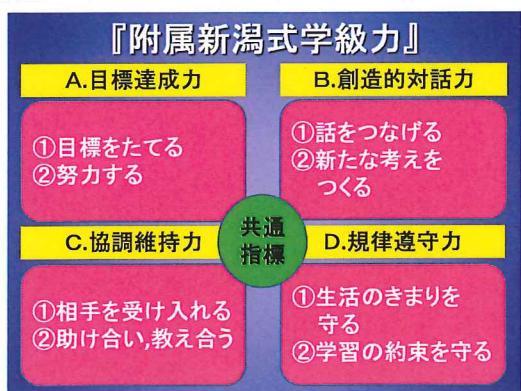
2 附属新潟式学習スキル

平成12年度以来、子どもの学びを支える方法や技能に着目し、それを「学習スキル」と名付け、「話す」「聞く」「評価する」等の観点から、低中高学年別に一覧表を作成し、全校体制で取り組んでいる。全学級が毎時間の授業の中で、教師も子どもも学習スキルを意識しながら授業を行っている。中でも近年は、「対話する」スキルに焦点付けて実践を積み重ねている。

3 附属新潟式学級力

平成20年度以来、全校体制で取り組んでいる。学級力とは、「子どもが支持的な学級風土をつくっていこうとする力」である。

毎月一人一人の子どもが学級の状況について、下図左の4観点8項目から評価する。担任はその評価データを基に下図右のようなレーダーチャートに表す。これを基に担任と子どもとで改善策や強化策を話し合い、実行している。毎月全学級でR-PDCAサイクルを回しながら、担任と子どもとでよりよい学級を創ろうと取り組んでいる。



4 附属新潟式情報リテラシー

平成25年度、コンピュータルームのデスクトップ型コンピュータの老朽化もあり、教育振興会等の厚意で、タブレット端末を80台導入し、校内の無線LAN環境を整備した。以来、附属新潟小の「ICT革命」が急速に進んでいる。創立140周年に、同窓会のご厚意で、さらに台数を増やし、現在、**160台のタブレット端末**が整備された。各教科等の授業において日常的に活用し、「各教科等の特性に応じた効果的なICT活用」「校内支援体制の充実」「情報リテラシーの自覚化」等に取り組んでいる。



Ⅱ 明日もまた来たくなる学校～本気で取り組む学校行事など～



～大運動会～



～1～3年登山～



～4年自然体験教室～



～5年佐渡自然体験教室～



～6年立山自然体験教室～



～クロスカントリー～



～附属アート・ミュージアム～



～附属ミュージックステーション～



～5・6年スキー教室～

1～3年生は異学年縦割り班で登山。4年生は1泊2日で県立少年自然の家でオリエンテーリング、キャンプファイヤー、カレー作り体験。5年生は2泊3日で朱鷺の島、佐渡でビオトープ作り、たらい舟、鬼太鼓等を体験。6年生は3泊4日で富山県の立山で、山小屋造りと3003mの雄山へのアタック。さらに5、6年生はインストラクターから教わるスキー教室もある。

クロスカントリー（マラソン大会）は、学校周辺の松林の中と海岸道路を気持ちよく疾走。附属アート・ミュージアム（展覧会）は、作品展示のほか、異学年縦割り班で共同製作。附属ミュージック・ステーション（音楽会）は新潟市芸術文化会館（りゅーとぴあ）で本格的に公演。

おそらく**全国でも当校だけ**の取組と思われるが、平成11年度以来、4月から11月上旬までの毎週木曜日に、**おにぎり給食**を実施している。子どもが家庭からおにぎりを持参する。持ち運び可能なおかず1品とデザート1品、紙パックの飲み物がつく。毎週木曜は清掃なしでロングの昼休みであることに加え、配膳の時間がいらないので、子どもが**思う存分遊ぶ時間を確保**できる。おにぎり、おかず、デザート、飲み物は**持ち運びが可能**なので、天気の良い日は、学級単位で、屋上、近隣の松林、海岸、公園などでお昼を食べている。また、**給食の時間を気にせずに校外学習や見学**に出掛けることもできる。「明日もまた来たくなる学校」に大きく寄与しているのが、この「おにぎり給食」である。



地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか？



「教育研究、授業づくりについての地域のモデル校」

- ① 27年度は、県内外の公立学校から、当校の14人の教員に対して、延べ47回の派遣要請があった。
- ② 県外の学校を含め、10回の学校視察を受け入れた。
- ③ 初等教育研究会では、2日間で延べ2,000人を超える参会者があった。
- ④ 来年度創刊150号となる当校の研究情報誌「Fnet+(プラス)授業の研究」は県内外に500人を超える定期購読会員がいる。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について

附属新潟小学校の存在意義

県・市教育委員会にとって

- ・優秀、有望な人材を活かす（公立校→←附属新潟小）（附属新潟小→行政）
- ・研修への協力（県初任者研修授業公開）

公立学校（校長会）にとって

- ・優秀、有望な人材を活かす（附属新潟小→公立校）
- ・理想とする授業モデル
- ・先進的な研究
- ・附属新潟式「学習スキル」「学級力」「情報リテラシー」
- ・校内授業研究への指導者派遣
- ・校内研修の講師派遣

同窓会にとって

- ・優秀な人材輩出
- ・卒業生同士のネットワーク
- ・わが母校（140年超の伝統）

経済同友会・JC

大学・学部にとって

- ・教育実習（入門、観察参加、春期、秋期）
- ・学部講義（教育実習事前指導、教科教育）
- ・初等教育研究会の指導者に学部教官を招聘
- ・学部生、院生の実践授業の場、調査研究対象
- ・教員免許更新講習の講師
- ・北京師範大学実験小学校との交流
- ・教職大学院との連携

附属新潟小は
必要！

子ども・保護者（父母教師会）にとって

- ・附属ブランド
- ・「明日もまた来なくなる学校」
- ・学力向上
- ・国立大附属校ならではの特色ある教育活動
- ・力量と魅力ある教師
- ・小・中学校が同一校舎、特別支援学校が同一敷地内
- ・安定した家庭環境・教育環境

新潟市民にとって

- ・県外からの研究会参加者多数による経済効果（新潟市コンベンション協会）

文部科学省国研にとって

- ・新学習指導要領を志向した先進的授業モデル
- ・汎用的能力の整理
- ・アクティブラーニングの具現
- ・英語、特別の教科道徳の先進的取組